



Noritake China / Ivory China / Fine China / Bone China / Folkstone / Primastone

ノリタケ食器 (ディナーウェア)

Progression China / Primadura / Craftone / Versatone / New Decade / New Fine Casual China

素材のいろいろ

Sheer Ivory Bone China / Diamond Collection / Fine China / Estate Porcelain / etc...

—— 素材のうつりかわり ——

ユリカで10%OFF
 「ユリカ」「一日乗車券」「ドニチエコきっぷ」
 を利用してご来館の方は、1割引。
 他との併用不可

■ 期間 2007年4月3日火...2009年3月29日日

■ 場所 ノリタケの森クラフトセンター3階 ノリタケミュージアム【開館時間10時-17時】 ■ 休館日 月曜日【月曜日が祝日の場合は翌日】、年末年始

■ クラフトセンター入館料 大人及び学生 500円(団体割引引き有り) 高校生 300円(団体割引引き有り) 中学生以下・障害の有る方 無料

ノリタケの歴史は、幕末の動乱の中で一人の青年が「貿易」を志したときから始まります。海外貿易を志した森村市左衛門は、明治9年(1876)に森村組を創業し、弟の豊(とよ)をニューヨークに送り出し「モリムラブラザーズ」を設立して骨董品や雑貨の輸出を始めました。その後、瀬戸で生地を作らせ、専属の画付工場で画柄を付けた焼物の輸出を行うようになり、陶磁器の卸業へと発展してゆきます。初期の頃はファンシーウェアと呼ばれる花瓶などを作らせていましたが、輸出事業の将来を見据え、欧米の家庭で使われる洋食器(ディナーセット)の製造・販売を目的として、近代陶磁器製造工場の建設を構想し、明治37年(1904)愛知県瀬戸村則武(現在の名古屋市西区則武新町)に日本陶器合名会社を創立しました。ここに「ノリタケ」ブランドが誕生し、ディナーセットの製造に着手することになりました。しかし、洋食器に必要なディナー皿の製造は困難を極め、ディナーセットの完成には10年にわたる試行錯誤が繰り返されました。大正2年(1913)ようやく待望の「白色硬質磁器」によるディナー皿が完成し、輸出の主力はディナーセットへ移行してゆきました。そして、高級品の「ボーンチャイナ(軟磁器)」の開発にも取り組み、昭和7年(1932)日本で初めて製造に成功しました。戦中は技術保存のためボーンチャイナの製造のみ許されていました。

それまでの製品は、ほとんど「還元炎焼成」でしたが、昭和40年代になると、温かみのある「酸化炎焼成磁器」を開発しました。また、カジュアルイメージの「炆器(せっき・ストーンウェア)」素材や、「電子レンジや食器洗浄器の普及など、生活スタイルの変化に対応した「耐熱強化磁器」の開発など、新たな素材開発を次々と進め飛躍への基礎を固めてゆき、一般家庭用洋食器から、ホテル・レストラン向けの業務用食器や、航空機内食器の分野にも展開されるようになりました。平成16年(2004)ノリタケは日本陶器創立以来100周年を迎えました。「白色硬質磁器」の洋食器をルーツとする素材開発は、その時代における生活スタイルや食生活の変化の先を読み、常にその時代背景を先取りし、それぞれの時代において市場の要求に応じてまいりました。

今後時代は変わろうとも「良品」の精神は変わることなく新たな100年に向かって進化を続けています。

ノリタケミュージアム



ノリタケの森クラフトセンター内
 ノリタケミュージアム
 〒451-8501名古屋市西区則武新町三丁目1番36号
 TEL 052-561-7114 (代) FAX 052-561-7276